

## ● 新年度がはじまりました！！ ●

いよいよ平成23年度がスタートしました。今年の春も、埋文センターは例年のように満開の桜に包まれ、多くの方々に花見を楽しんでいただきました。そして季節は春から梅雨へと移り変わるなかで、市内での発掘調査もあわただしく動き始めています。今号では、4月に実施した立入荒牧遺跡、吉身西遺跡の発掘調査の成果に加えて、埋文センターで実施した春の特別展の様様などを紹介したいと思います。



調査地位置図

## ● 発掘調査の成果 ●

### (1) 立入荒牧遺跡 第3次調査

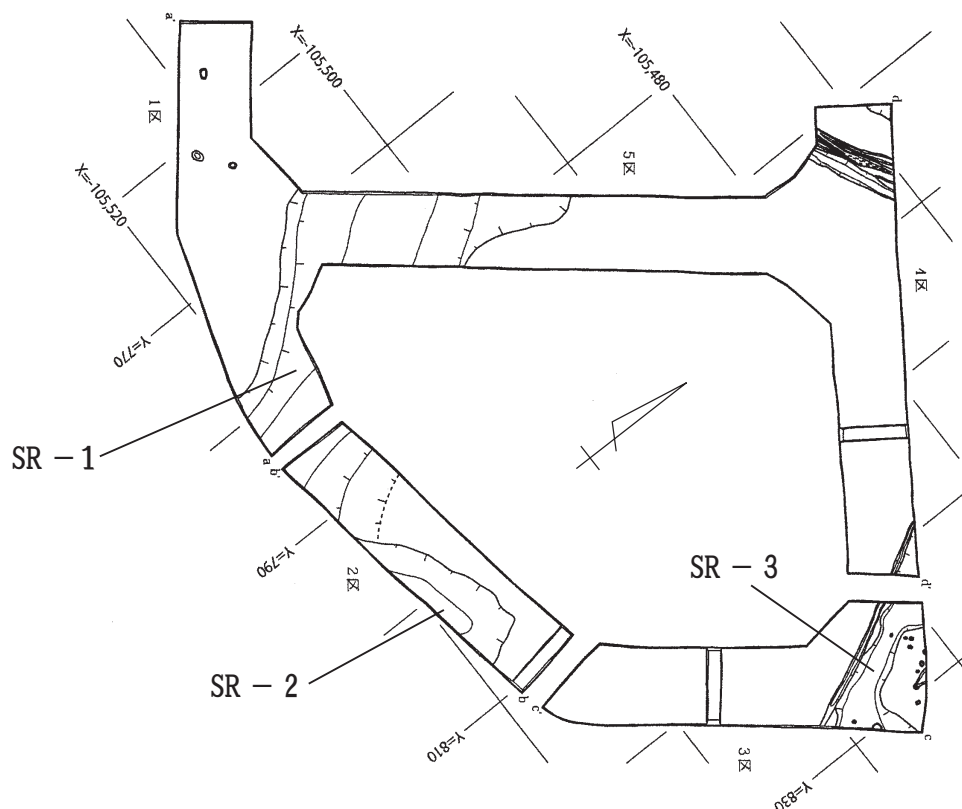
平成23年2月から4月上旬にかけて、立入町地先にて宅地造成工事に伴い、約1,000㎡を対象に発掘調査を実施しました。今回の調査では、主に溝などの遺構が見つかりました。SR-1は最大幅約15mの大溝で、古墳時代の須恵器や、平安時代の緑釉陶器、鎌倉時代の黒色土器などが出土しています。不規則な形状をしていることなどから、自然流路であると考えられます。また、土器が埋納されたと見られるピットが見つかり、そこから7世紀前半の須恵器坏が完形で2個体出土しました。当時の土器埋納の在り方を知る上で貴重な成果といえます。周辺では、これまでの調査で古墳時代を中心とする建物跡などが見つかり、今後の調査の進捗によりあらたな知見が得られることに期待したいと思います。(木下)



調査地全景 西から



ピットより出土した須恵器坏



立入荒牧遺跡 全体図 (S=1/300)

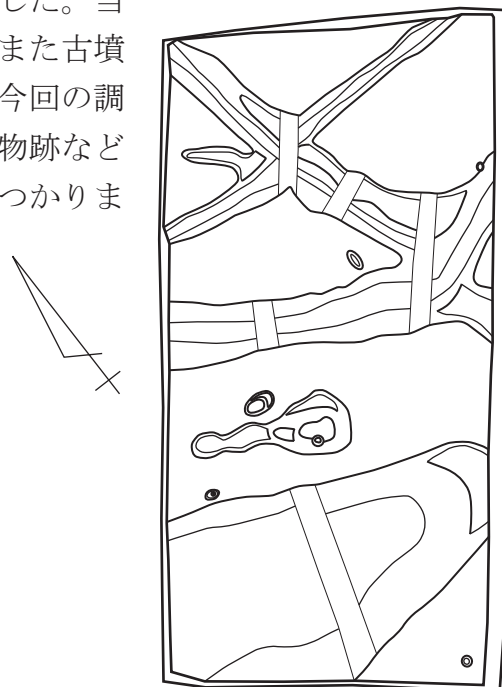
### (1) 吉身西遺跡 第102次調査

4月15日から28日にかけて、集合住宅建築工事に伴い、約175㎡を対象に発掘調査を実施しました。当該地周辺からは、弥生時代の建物跡や墓跡、また古墳時代の建物跡などが多数発見されています。今回の調査地の隣接地点でも、古墳時代後期の竪穴建物跡などがみついています。調査では、主に溝が見つかりました。出土した土器から、古墳時代後期のものと考えられます。隣接地の竪穴建物跡と同時期のものであることから、周辺に展開した集落の一端を成すものだったと考えられます。

(木下)



調査地全景 北から



0 5m  
(S=1/200)

吉身西遺跡 全体図 (S=1/200)



## ● 埋文センター 春の特別展開催 !! ●

4月23日（土）から5月8日（日）にかけて、埋文センター春の特別展『大民具展—野洲川流域の人々の暮らし—』を開催いたしました。「民具」とは、かつての暮らしの中で実際に使われていた生活用具のひとつです。農具や漁具、その他日用品にいたるまで様々な分野の道具を総称したものをいいますが、高度経済成長期を境にして、機械製品や電化製品などの普及によって、現在ではそれらのほとんどが見られなくなってきました。しかし、これらを通してかつての暮らしを具体的に見ることができることから、地域の歴史を語る上では不可欠な資料といっていでしょう。

今回の特別展では、市教育委員会で保管している「民具」の一部と、さらにそれ以前に使われていた発掘調査で出土した「考古資料」との比較を通して、野洲川流域に暮らした人々の生活を考えていくことにしました。

見学者の方々の中には、「子供のころに実際に使っていた。」「今でもうちの倉庫の中に残っている。」など、とても懐かしがってご覧いただいた方も多数おられました。また、近代の農具と古墳時代の農具を比較して、道具の基本的な形は1500年以上前から大きく変化していないことに驚かれた方もたくさんおられました。

5月1日（日）には、埋文センター所長による民具の実演を行いました。センターには、かつて使用されていた「水車」が体験学習田の横に復元して設置してあります。水車では一時間でおよそ1反分の田に水を入れることができたといわれています。所長が水車をこぐと、水が田んぼに流れていき、見学者の方々もその勢いのよさを間近に見て驚きの表情をされていました。その他にも、「俵あみ機」の実演など、現代では見られない道具の実演に見学者の方々も見入っておられました。



## ● 新 人 紹 介 ●

井上 淳子（事務員） 4月より埋文センターでお世話になっております井上淳子です。以前は信楽焼の陶芸講師をしておりました。考古学は初心者ですが、美しい自然に囲まれた埋文センターで、体験学習や友の会などのお手伝いをさせてもらいながら勉強していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## ● 歴史入門講座 募集のお知らせ ●

今年度も6月から12月にかけて計6回にわたって、歴史入門講座を開講いたします。今年度の講座は、近江地域に開花した文化や伝統をひも解き、その個性ある歴史を理解するための話題を提供していきたいと思えます。ゆったりとした雰囲気の中で、近江の歴史を楽しんでみませんか？



【全体テーマ】『近江に根ざした歴史と文化』

【講座日程】

第1回 6月18日（土）「近江の弥生土器をきわめる」

講師 小竹森 直子 さん（財団法人滋賀県文化財保護協会）

第2回 7月16日（土）「近江と渡来人」

講師 細川 修平 さん（財団法人滋賀県文化財保護協会）

第3回 9月17日（土）「中世の開発と河川」

講師 重田 勉 さん（財団法人滋賀県文化財保護協会）

第4回 10月15日（土）「日本史における忍者の役割」

講師 阿刀 弘史 さん（財団法人滋賀県文化財保護協会）

第5回 11月19日（土）「信長の城づくり」

講師 岩橋 隆浩 さん（財団法人滋賀県文化財保護協会）

第6回 12月17日（土）「近江の生活と民俗文化」

講師 舟橋 和夫 さん（龍谷大学教授）

【開催場所】市役所東棟3階会議室（初回のみ）

市立埋蔵文化財センター2階会議室（第2～6回）

【開催時間】午前9時30分から正午まで

【定 員】先着60名

【受講料】1,200円（講座6回分。1講座のみ受講される場合は、1講座200円。）

【申込み期間】平成23年6月1日から同年6月10日まで

【申込み先】守山市立埋蔵文化財センター

電 話・FAX 077-585-4397

機関紙「乙貞」は守山市のホームページからも閲覧できます。